

留学報告書 II (2020 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	女子高等学校 2 年
留学先校名	Shrewsbury School
留学期間	2020 年 9 月から 2021 年 7 月まで

留学前

派遣留学先にどのようなことを期待していましたか？

少人数クラスでディスカッションを行うなど、パブリックスクールならではの質の高い授業を受けること、また、世界各国より集まるレベルの高い生徒達と切磋琢磨しお互いを尊重し合える友人を作りたいことを期待していました。

他にも、広大で自然豊かな環境でしか味わえない経験をするのを楽しみにしていました。

留学に向けて、事前にどのような目標を立てましたか？

1. 新しいことに臆せず挑戦すること
2. 何事にも積極的に参加し、相手を尊重しつつ自分の意見もしっかりと主張できるようにすること

また、私は多方面に興味があり進路を全く決められていなかったため、英国の名門校に通う生徒達がどのように各々の将来について考えているのかを知り、日本ではまだ馴染みのない新しい分野や可能性に触れる機会を得ることで視野を広げ、自分が本当に興味を持てる学問を見つけることを目標にしていました。

留学を振り返って

例年と異なる状況のため様々な制限がありましたが、期待以上の充実した生活を送ることができました。

コロナ禍での留学ということで渡航前より途中帰国も覚悟していたため、一年間シュルーズベリーで学べたことは本当に幸運でした。

良かった点はたくさんありますが、恵まれた環境の中でイギリスならではのスポーツや行事を体験できたこと、多様なバックグラウンドを持つ生徒達と友達になれたことは、自分の常識を塗り替える貴重な会いだったと思っています。また、ホストファミリーにも恵まれ、伝統的なイギリスのクリスマス体験したり歴史ある街に連れて行っていただいたことも良い思い出です。

悪かった点としては、外出許可が下りず楽しみにしていたシュルーズベリーの街にあまり行けなかったことや、インターネットの接続制限により夜間にデジタルテキストにアクセスできず勉強がしにくかったこと、寮の食事がパターン化して飽きてしまったことが挙げられます。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

- ・ String Ensemble : 校内のヴィオラ奏者が二人のみのため、先生にお誘いいただき Lower School の弦楽アンサンブルに参加しました。15 人程のクラブで、毎週月曜日に練習がありました。感染症対策で中止されていたコンサートが最終学期より再開され、何度か演奏することもありました。
- ・ ETSOS (Experimental techniques in science for overseas students) : Lower 6th form の化学履修者のうち英語が母国語でない生徒を対象とした Thursday afternoon activity です。主に GCSE から A-Level までの化学の実験を行いました。(Michaelmas term)
- ・ Concert Party : 個人でのピアノ演奏と、ヴィオラを弾く友達とのピアノデュエットを録音し、近隣のデイホームなどに送りました。(Lent / Summer term)
- ・ RSSBC Novice Seniors (Rowing) : 上級生向けの初心者ボートクラブです。30 人弱で放課後に週 2 日練習していました。ローイングマシンや屋内タンクを使用したテクニックの練習と筋トレが主ですが、実際に川で練習することもありました。学期の終わり頃には難易度の高い 4 人乗りの Quad に上級生に交じって乗る機会もあり、イギリスならではのスポーツを楽しむことができました。(Michaelmas term)

- ・ RSSH (Benjies) : 週 2 日のクロスカントリークラブで、学校の敷地を 2 周するなど毎回 5km 程走りました。(Lent term)
- ・ Cricket : 上級生対象の女子クリケットクラブに参加しました。学期の前半は週 4 日、後半は週 2 日練習があり、ほとんどの練習はクリケットセンターで行われました。私は一軍に混ざって試合に出る機会もあり、Floreat を戴くなどとても貴重な経験をする事ができました。Summer term はクリケットシーズンのため寮対抗の試合が行われるも多く、そこにプレイヤーとして参加することもできたのでクリケットを選んで本当に良かったと思っています。(Summer term)
- ・ Senior String Quartet : 同級生 3 人と弦楽カルテットを結成し、週一回練習していました。朝のチャペルやコンサートで演奏する機会をいただき、特にチャペルでは響きの良い広い空間で自分達の音を楽しむ事ができました。
- ・ Music lessons : ピアノとヴィオラの個人レッスンを週に 2 回と 1 回、受けていました。ヴィオラは 2 度、ピアノは 1 度昼のコンサートで演奏させていただきました。また、朝のチャペルでピアノを演奏する機会もいただき、校長先生や音楽科主任先生を始め多くの先生やクラスメイトから感想をいただくなどとても良い思い出となりました。

学校内や寮内で、コロナ対策としてどのようなルールがありましたか？

校内では寮・学年・クラスごとにバブルが作られ、それに基づいて休み時間や食事の時間、クラスの座席などが決められていました。食堂の列や建物に出入りする際はマスクの着用が義務付けられましたが、寮内や着席後の教室内では着用しませんでした。シャワーの時間は特に決められておらず、感染症対策などもされていませんでした。

また、感染症対策とリモートレッスンになった際の準備を兼ねてデジタル化が推奨されました。先生と生徒間では紙の受け渡しが制限され、教科書もデジタル版を使う教科が多かったです。(のちに緩和され、テスト用紙の回収や返却は普通に行われましたが、電子化を好む先生も多く、One Note は欠かせませんでした)

政府の指示により大人数で集まる事が禁止された際には、上級生のバーが閉鎖されたり街への外出が禁止されたりしました。加えて、ロックダウン以降は週に 2 日寮で抗体検査を行いました。

アドバイザーとの面会がありましたか？ どのような内容でしたか？

チューターの先生と 2 か月に一度面談をしていました。先生が担当している同級生二人と共に行われるグループチュートリアルでは、各授業の先生方からのコメントやアドバイスを教えていただいたり、課外活動やスポーツの様子を報告していました。また、アカデミックレポートや試験の成績が発行される前には個人チュートリアルが行われ、チューターの先生とレポートの内容を確認し改善策などを話し合いました。私のチューターの先生は寮の副寮長先生で resident tutor でもあったため、寮内でお会いすることが多く、面談以外でも気軽に相談や世間話ができ手厚いサポートをしていただきました。

学業について

・ 化学 : 有機化学と無機化学を勉強しました。授業は先生のパワーポイントもしくは板書をノートや One Note に写す講義形式で、実験を行ったり練習問題を解く時間もありました。実験はペアで行うことが多く、また 9 人と少人数のクラスだったため質問も活発でした。

課題はほとんどなく、たまに練習問題や試験の過去問が宿題として課されました。

試験は単元毎のクラス内テストと年二回の校内試験がありました。化学の試験は毎年傾向が似ており、パターンを覚えてしまえば確実に点数が取れる問題が多かったため、試験前には今までの単元末テストや過去問の復習を集中的に行いました。

日本と比較すると無機化学は計算が複雑な問題が少なく、有機化学は全体的にとってもシンプルのように感じました。

・ 物理 : 力、運動、電気、波、量子力学など日本と内容はほとんど変わりませんでした。

基本的にどちらの先生も One Note を使用して説明して下さり、自分でノートを取ることはほとんどありませんでした。実験は頻繁に行われ、少人数クラスのためひとり一人実験を行ったり、わからないことはすぐに質問する事ができたため、しっかりと理解の定着ができました。また、授業内で問題演習をすることは多くありましたが、宿題は全くといってよいほど出されませんでした。クラス内では生徒達が活発に発言しており、時には一コマ全て単元とは異なる物理の話をしたり、生徒から出たアイデアが実現可能か調べ計算をしたりと教科書にとらわれない自由な学びをすることができました。

試験は単元毎のテストと、11月と6月に行われる校内試験がありました。特に6月の試験は範囲も広く、また重要なものなので先生方のサポートも手厚く、空きコマの時間に有志の補修をして下さったり、過去問とポイントをまとめた冊子を作成して下さいました。

・数学 : Pure と Applied に分かれており、前者は日本の数学で学ぶ内容(ベクトルや微積分など)が主で、後者は統計や力学を扱いました。どちらも授業内で講義と演習、宿題として教科書の練習問題が課されました。

単元ごとのテストは無く、試験は11月と6月の校内試験のみでした。数学は履修者が多く、学年内で生徒のレベルに大差があるため11月の試験後にクラス替えが行われました。上級クラスに移動した後は授業進度が早くシラバス以上の発展問題に取り組めるようになったため、より充実した授業を楽しむことができました。

・ビジネス : マーケティング、ファイナンス、人事、オペレーションなどについて勉強しました。基本的に先生がパワーポイントや One Note を使用して講義をし、関連したケーススタディを解いていました。課題は教科書のノートを作成したり、授業に関連したケーススタディに取り組むことが多かったです。試験は年二回の校内試験のみですが、ビジネスはエッセイ形式の試験のため日頃から短時間で要点を抑えた文章を書く練習を行っていました。私が特に苦労したのは 16marks と 25marks のエッセイで、それぞれ 16分と 25分を目安に書かなければならないのですが、時間内にケーススタディを読んで理解し、問いに正確に答えつつ反論・結論・発展を含めた二つのパラグラフを組み立てることは慣れるまでは本当に大変でした。

今後の派遣留学生へのアドバイス

学習に関しては、私は事前に日本で学習すべきことはあまり無いと思います。私自身生来の楽観的な性格もあり全く事前学習をせずに渡航しましたが、化学・数学・ビジネスの授業や日常生活で困ったことはほとんどありませんでした。ただし、物理は初めに GCSE の総復習を行うため、日本で未学習の範囲や GCSE Physics の用語に軽く目を通しておくと良いかもしれません。

学習以外では、自分の強みや特技などを見つけておくと良いと思います。

私の場合は音楽がそれにあたり、普通ならあまり関わりのない下級生達とアンサンブルを通して知り合いになれたり、チャペルやコンサートで演奏したことをきっかけに今まで話したことのない先生方や生徒に声をかけてもらえたりとたくさんの出会いをもたらしてくれました。

また、何でも気軽に挑戦することも大切だと思います。思いがけない発見や新たな可能性を見つけられることも留学の醍醐味なので、ぜひ機会を無駄にせず色々なことにチャレンジしてみてください。

以上

